

地域連携NEWS



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

医療サービス推進課医療連携室
Vol.78 2019年1月発行

〒173-0015

東京都板橋区栄町35番2号

TEL03(3964)1141(代表)

FAX03(3964)1392(連携室)

2019年新年のご挨拶



センター長
許 俊鋭

新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、区西北部二次医療圏でご活躍の先生方にとりまして今年も実り多い年となりますよう心から願っております。

私共のセンターは平成21年に東京都老人医療センターと老人総合研究所が一体となって再出発し10年が経ちました。心臓病・大動脈瘤・脳卒中などの血管病、がん、認知症などあらゆる高齢者疾患の診療、介護予防に積極的に取り組んでいます。高齢者の高度急性期医療を担う病院としてハイブリッド手術室や高性能画像診断装置（PET, CT, MRI）などを充実させ、最先端医療から患者さんに寄り添う医療まで高齢者に必要な医療を提供させて

頂いています。

一方、高齢患者さんは多くの合併疾患を持つ多病の方が多く、認知症、フレイル（虚弱）、サルコペニア（筋力低下）、ロコモティブ症候群（歩行障害）などにより入院が長期化しがちです。高齢者には低侵襲治療が望ましく、消化器内視鏡がん手術（ESD）・腹腔鏡・胸腔鏡がん手術、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、高齢者大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）など、極めて技術度の高い低侵襲治療を積極的に行ってきました。

平成26年の医療介護総合確保推進法により地域での効率的かつ質の高い医療や介護を総合的に提供する地域包括ケアシステムの構築が始まり、私共は高齢者を支援する地域力の強化の一環として連携施設の皆様と紹介・逆紹介機能を強化して、区西北部二次医療圏の地域包括ケアシステムの構築を積極的に推進していきます。

平成28年には生活自立度が低い患者さんや在宅療養患者さんなどを受け入れ、在宅復帰を目指した支援を行う地域包括ケア病棟（38床）を開設、平成29年には脳卒中ケアユニット（6床）を開設し患者さんのニーズに合った病床機能の再編も積極的に進めています。

720名を越す連携医の先生方のご支援により、高度急性期医療から在宅医療まで区西北部二次医療圏における一貫した地域包括ケアシステムを構築すべく努力し、高齢患者さんへの「優しく暖かい医療」の提供を志して参ります。本年もご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

予約専用電話	検査予約	医療連携室	
外来受診予約専用番号 03(3964)4890 対応時間 月～金 9:00～17:00 当センターは紹介予約制です。ご紹介の際は、紹介状とご予約をお願いいたします。	代表電話番号 03(3964)1141 対応時間 月～金 9:00～17:00 ◎CT、MRI、骨密度(内線2171) ◎RI(SPECT、PET検査)(内線2154) 検査科にてスムーズな予約対応を行っております。	医療連携についての問い合わせ 03(3579)6963 医療連携室FAX番号 03(3964)1392 ホームページ： http://www.tmgig.jp/ (過去の地域連携NEWS、講演会のご案内、医療連携室のご案内はホームページでご覧いただけます。)	<ul style="list-style-type: none"> ●東武東上線 「大山」駅下車南口・北口より徒歩4分 ●都営地下鉄三田線 「板橋区役所前」駅下車A3出口より徒歩11分 <p style="text-align: center;">東京都健康長寿医療センター</p>

ポリファーマシー外来・在宅支援入院のご紹介



総合内科部長
岩切 理歌

■ポリファーマシーの概念

ポリファーマシーとは単に服薬数が多いことではなく、臨床的に必要とされる以上に薬が処方されており、薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下などの問題につながる状態のことをいいます。ポリファーマシーの問題点として、特に6剤以上の内服において有害事象が出やすくなることや、服薬アドヒアランスの低下による薬の飲み間違い、残薬の増加が挙げられています。そして残薬の年間総額は約500億円とも言われています。

■当院における薬の内服状況

2016年に当センター入院患者さん年齢分布(80±10.4歳)について薬剤科が調査したところ、平均服薬数は6.3±3.8剤でした。加齢と共に服薬数は増え、80-84歳で平均6.8剤と最も多くなり、85歳をピークに平均内服数は減少する傾向にありました。

また、平均4.1疾患について薬物治療を受けており、5剤以上内服されている患者さんは約70%、10剤以上内服されている患者さんは約20%おられました。

■ポリファーマシーチームの発足

2017年1月に各診療科の医師と薬剤科が集まりポリファーマシーチームが結成され、ポリファーマシーに対する取り組みが始まりました。

活動の1つとして、地域包括ケア病棟、整形・脊椎外科病棟において、内服薬の見直しを目的とした検討会を、週1回内科医師と薬剤師により行っています。薬の飲み残しが多い患者さんについては、服薬の回数減や中止可能な薬剤について処方医に提案。重複処方やエビデンスのはっきりしない薬剤が混在している場合には、薬の整理を提案し、薬剤有害事象が懸念される場合には、安全性の高い薬剤への変更を推奨する取り組みを行っています。

活動を開始した2017年8月から2018年9月までに、8剤以上内服されている約450人が検討の対象となり、対象患者さんの約30%に対し、薬剤の変更あるいは減薬が行われました。



ポリファーマシー・在宅支援チーム

■ポリファーマシー外来のご案内

ポリファーマシー問題が顕在化するにつれ、「こんなに薬を飲んで良いのでしょうか？」と不安を抱える患者さんや「薬の飲み残しが多くなってきたので、薬を減らしたい。」と希望される患者さんが増えてきました。しかし、一般診療の限られた時間の中で、残薬や服薬管理状況を確認し、患者さんの疑問にお応えすることは容易ではありません。そこで、薬剤師と共に時間を確保し、患者さんの薬への想いを聞き、服薬指示が遵守可能な生活環境であるかどうかを確認し、処方医の先生に情報提供を行うことを目的としたポリファーマシー外来を開設いたしました。

- ・飲み残しが多い患者さんにつきましては、生活機能や生活環境を確認のうえ、服薬管理方法について調整し、忘れない工夫についてもご指導いたします。
- ・薬の必要性や副作用についてのご説明を行います。
- ・有害事象出現リスクが高い薬を使用中の場合には「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015 老年医学会」に基づき、安全性の高い薬剤への変更も提案いたします。
- ・中止や変更をご検討中の薬についてご教示いただいた場合には、ポリファーマシーチームで相談し、可能な範囲で対応させていただきます。

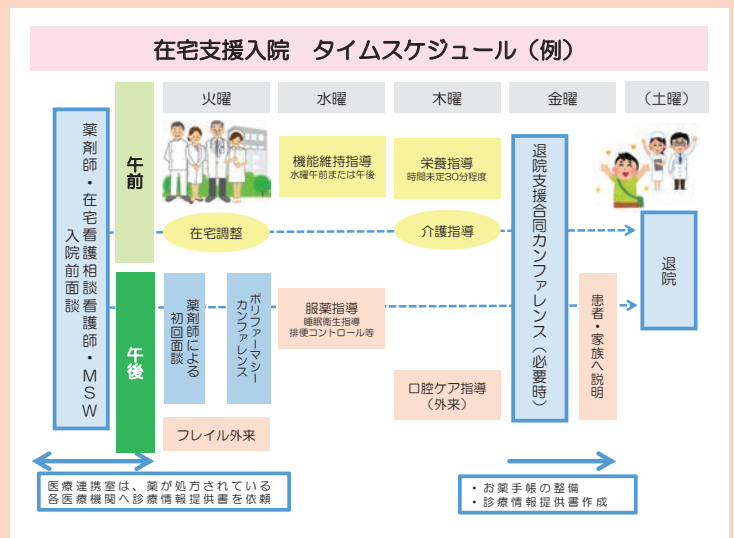
■在宅支援入院のご案内

健康で快適な生活を継続していくためには、生活習慣や生活環境を少しずつ見直していく必要があります。

栄養摂取に偏りがある、薬の飲み残しが多い、口腔内の清潔が保てなくなっている、などの場合には、早めに指導を受け、介護環境を整えることが重要です。また、体調不良時の連携体制を整えること、通院が困難のため在宅療養環境を整えることをご希望の場合には、多職種が関わり快適な生活が送れるように調整いたします。また、ご家族の介護疲れが顕著な場合のご相談も承ります。

約1週間のご入院（最長約2週間）にて、内科医師がフレイルの評価(認知機能や生活機能の評価)を行い、歯科口腔外科医師による口腔ケア指導、薬剤師による服薬指導、栄養士による栄養相談、リハビリテーション科スタッフによる機能維持指導、看護師による介護指導を行います。必要に応じて、在宅支援担当看護師や医療ソーシャルワーカーがケアマネジャーとも連絡を取り、在宅介護サービスの調整も行います。

在宅支援入院をお考えの場合には、まずは在宅支援外来をご予約下さい。



ポリファーマシー・在宅支援入院タイムスケジュール

■ご紹介いただく先生方へ

医療連携室（直通電話 03-3579-6963 受付時間 9時～17時）までご連絡下さい。外来受診が困難な患者さんにつきましては、直接のご入院（入院期間は1-2週間）にて対応させていただきます。

■初診の患者様へ

ポリファーマシー・在宅支援外来は、火曜日13時～15時、木曜日13時～15時です。

予約センター（直通電話 03-3964-4890 受付時間 9時～17時）で予約をとり、予約日にご来院下さい。

来院の際には、必ずお薬手帳と診療情報提供書をご持参下さい。

連携医療機関のご紹介 じんの内科医院



じんの内科医院
院長 神野 悟

30年前、東京都老人医療センター（現東京都健康長寿医療センター）に勤務することになりました。まもなく敷地内の渋沢栄一の銅像に気付きました。私は埼玉県出身で、子供の頃から郷土の偉人として、渋沢栄一の話をよく聞かされていましたが、何故ここに彼の像があるのか不思議に思いました。直ぐに渋沢栄一が貴センターの前身である養育院を設立し、長年院長を勤められたと知り、遠からぬ縁を感じました。

貴センターに11年勤めさせて頂いた後、1999年12月、練馬区氷川台で開業いたしました。開業当初、貴センターで診させて頂いた患者さんや、「老人医療センターで働いていた医者なら」という事で来院していただいた方が多数おられ、改めて貴センターの地域での信頼度を確認いたしました。同時にOBとして身の引き締まる思いをしました。

開業からもうすぐ20年になります。いろいろな経験をし、また学ばせていただきました。プライマリ・ケア、在宅医療、終末期医療、在宅看取り、様々な局面で東京都健康長寿医療センターの存在は要となっています。今後も総合内科専門医、老年病専門医、呼吸器専門医の資格や知識を十分に活かし、貴センターとの連携を図りながら、地域医療に貢献したいと思います。

先日、貴センターで開催された渋沢栄一に関する市民講座に出席いたしました。9歳まで渋沢栄一と同居され、現在100歳近くになられたお孫さんの講演を拝聴することができました。渋沢栄一の博愛主義が東京都健康長寿医療センターの通奏低音となっていることがよくわかり、そして自身もそのOBである事を忘れてはいけなかったと思います。

医療法人社団 **じんの内科医院** 〒179-0084 東京都練馬区氷川台3-24-21
TEL: 03-5922-6171

診療科：内科・循環器内科・呼吸器内科・老年内科・在宅医療

休診日：木曜・日曜・祝日

診療時間：

	月	火	水	木	金	土	日	
9:00～12:00	○	○	○	△	○	○	△	
14:00～16:00	往診						○	△
16:00～19:00	○	○	○	△	○	○	△	

ホームページ：www.jinno-naika.com

アクセス：東京メトロ「氷川台駅」出口1より徒歩6分

公開CPCのご案内

このたび、平成30年度東京都健康長寿医療センター公開CPCを以下のとおり開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日時：2019年1月24日(木) 19時30分～

担当科：神経内科

臨床診断：下血、陳旧性脳梗塞、自律神経障害、
S上結腸軸捻転の術後、胃瘻造設状態

開催場所：東京都健康長寿医療センター3階
第3会議室A・B



公開CPCの様子

アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車 南口・北口より徒歩4分
 - 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車 A3出口より徒歩11分
- ※お車でお越しの方に駐車場(駐車料無料)もご用意しております。
駐車台数に限りがあることを、予めご承知おきください。

*本公開CPCは日医生涯教育制度(1.5単位)の対象予定です。
*事前申込不要、参加費無料です。